

諫早市立真津山小学校いじめ防止基本方針

めざす子ども像

(知) **ま**なびたい(自分で考え、自分から動く)

(徳) **つ**ながりたい(自分も人も大切にできる)

まつやまっ子

(体) **や**ってみたい(チャレンジできる心と体)

○ いじめの定義

児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものと定義する。

「いじめ防止対策推進法」より

○ いじめに対する基本的な考え方

いじめ問題に迅速かつ組織的に対応するために、いじめに対する認識を全職員で共有する。そして、いじめは、どの学校・どの学級でも起こりうるものという基本認識に立ち、すべての児童生徒を対象に、いじめに向かわせないための未然防止・早期発見・早期対応に取り組む。

【いじめ対策委員会】

いじめ防止等に組織的に対応するため、いじめ対策委員会を設置し、基本方針に基づく取組の実施、進捗状況の確認、定期的検証を行う組織である。次のような機能を有する。

- いじめ防止等の取組の実態や年間計画の作成・実行・検証・修正の中核をなす。
- いじめの相談・通報の窓口となる。
- いじめの疑いに関する情報や児童の問題行動などに係る情報の収集と記録、共有する。
- いじめに組織的に対応するための中核をなす。
- 教育相談体制の充実やカウンセラーとの連携を図る。
- 個々の教師の悩みや家庭からの相談事に対応できる。
- 教育委員会と連携し、学校全体の取組の充実改善を図る。

〈校内構成メンバー〉

校長 副校長 教頭 主幹教諭 教務主任 生活指導主任 保健主事 養護教諭
該当担任

心のケア相談員 スクールカウンセラー

〈校外構成メンバー〉

P T A代表 学校評議員 学校支援会議委員

【家庭・地域との連携】

社会全体で児童を見守り、健やかな成長を促すため、学校関係者と家庭、地域との普段からの密な連携を図る。

○ 学校としての「いじめに対する基本的な考え方」を家庭や地域に十分に理解してもらう機会をもつ。

○ P T Aや地域の関係団体等と学校関係者が、いじめの問題について協議する機会を設けたり、学校関係者評価委員会や地区の各団体の会議等を活用したりするなど、いじめの問題について家庭、地域と連携した対策を推進する。

○ 家庭や地域を含めた多くの大人が子どもたちの悩みや相談を受け止めることができるようにするため、組織的に連携・協働する体制を構築する。

※ P T A 総務会 健全育成会
社会福祉協議会との連携



学校のいじめに対する基本的な考え方の説明会、経過報告会、学校だより等の広報活動

【関係機関との連携】

いじめの児童に対して教育上必要な指導を行っているにも関わらず、指導が十分な効果を上げることが困難な場合等は、関係機関との適切な連携を図る。

※ 警察、こども・女性・障害者支援センター、医療・福祉機関、法務局等

○ 平素から、学校と関係機関の担当者の連絡会議の開催等、情報共有体制を構築しておく。

※ 真津山交番 子ども支援課 児童民生委員

【児童会】

児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

(1) 児童会の計画や運営
(2) 異年齢集団による交流

(3) 学校行事への協力

○ 代表委員会

・ 年間5回の定例会議

・ 学校生活をよりよくするための議題

・ 行事に楽しく参加するための議題

○ 委員会活動(10)

○ 児童集会

○ 縦割り活動

〈いじめの未然防止〉

すべての児童が安心・安全に学校生活を送ることができ、規則正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校づくりを進めることから始まる。

〔居場所づくり〕

学級や学年、学校を児童の居場所にしていく。様々な危険から守るという安全はもとより、そこにいることに不安を感じたり、落ち着かない感じをもったりしないという安心感も重要である。そのためには、授業改善、授業の見直しが必要になる。「児童が困らないようにする」ための場所づくりと考える。

〔絆づくり〕

教師がきちんと「居場所づくり」を進めているという前提のもとで、児童自らが主体的に取り組む活動の中で、互いのことを認め合ったり、心のつながりを感じたりできる

ことである。児童同士と一緒に活動することを通して自ら感じとっていくものが「絆」であり「自己有用感」である。「絆づくり」を行うのはあくまでも児童である。

教師は、そのための「場づくり」をすることが必要である。すなわち、すべての児童が活躍できる場を準備することである。



(1) わかる授業づくり（すべての児童が参加・活躍できる授業）

- ①基礎的・基本的事項の徹底習得
- ②言語活動の充実（学び合う）→ ペア学習 グループ学習

(2) 学習規律の徹底

- ①話し方（話し手を見て話す）、聞き方（話し手を見る、最後まで聞く、反応する、強く否定しない）
- ②正しい姿勢

(3) 体験学習（活動）の充実

- ①生活科、総合的な学習の時間の6年間を見通した系統的、計画的な実施

(4) 道徳教育の充実

- ①道徳の授業を通して、児童の自己肯定感を高める。
- ②すべての教育活動において道徳教育を実践し、人権尊重の精神や思いやりの心を育てる。

(5) 児童会活動の充実

- ①学校行事の主体的な運営
- ②委員会活動の充実
- ③異学年との交流（縦割り活動）

(6) 人権・平和教育

- ①年間を通じた活動（掲示等）
- ②平和集会、人権集会

(7) 基本的生活習慣の徹底

- ①「気持ちのよいあいさつ」「優しい言葉を使う」「はさみ歩き」を1年間通しての生活目標とする。

(8) 健康な体作り

- 年間を通じた「体作り活動」 縄跳び

〈いじめの早期発見〉

(1) 早期発見の基本

- ①児童の些細な変化に気付く。
- ②気付いた情報を確実に共有する。
- ③情報に基づき、速やかに対応する。

(2) 早期発見のために

- ①「いじめはどの学校でも、どの児童にも起こり得るものである。」という基本認識に立って、全教職員が児童の様子を日常的に丁寧に観察することにより、気になる変化を見逃さない感覚を身に付けていくことが必要である。
- ②おかしいと感じた児童がいる場合には、5W1H（いつ、どこで、誰が、誰と、何を、どのように）を付箋紙等に簡単にメモし、職員がいつでも共有できるようにする。そうした目撃情報を毎日集約し、必要に応じて関係者を集め、その後の対応を考える体制をつくる。
- ③全児童に対するいじめの実態調査を各学年で実施する。アンケート、児童観察等様々な方法で実態把握に努める。さらに、6月と10月と2月の3回、全児童に対して「なかよしアンケート」実施する。アンケートの結果をもとに各担任が児童一人一人と個人面談を行い、さらなる実態把握、問題解決に努める。また、8月と3月に児童理解支援シート（いいとこみつけ）を、また、児童理解研修会時および学期末に、児童の実態等で今後引き継いでおいた方がよいと思われることを子ども実態引継シート（いいとこみつけ）に、児童一人一人についての気になる情報等を記入し、次学期・次年度の指導へ役立てる。

〈いじめに対する措置〉

(1) 教職員〔学校〕

- ①遊びやふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止める。
- ②いじめの疑いがある場合は、当事者双方や周りの子どもからの聴き取りを行い、情報収集と記録、いじめの事実確認等に努める。
- ③「いじめ対策推進協議会」を開き、いじめとして対応すべき事案かどうかを判断し、いじめであると判断されたら、指導のねらいを明確にし、全教職員で共通理解を図る。
- ④被害児童のケア、加害児童の指導など、問題の解消まで「いじめ対策推進協議会」が責任をもって行う。
- ⑤いじめ対応は、「いじめ対策推進協議会」が行い、「重大な事案」と判断した場合は、諫早市教育委員会に報告する。

(2) 児童

- ①いじめられた児童の保護に努め、心配や不安を取り除くことともに、最も信頼できる人と連携を図り、支える体制をつくる。スクールカウンセラー等を活用し、心のケアに努める。
- ②いじめた児童に対して、いじめは人格を傷つける行為であることを理解させ「いじめは決して許される行為ではない」という人権意識をもたせる。
- ③いじめを見ていた児童に対しても、自分の問題として捉えさせるとともに、いじめを止められなくても、誰かに知らせる勇気をもたせる。

(3) 保護者

- ①いじめられた児童の保護者
 - ・家庭訪問をし、その日のうちに事実関係や守り通すこと、秘密を守ることを伝える。

- ・その後も意欲的に連絡等をとるなどして、見守りを続けておく。
- ②いじめた児童の保護者
- ・事実関係を聴取したら迅速に保護者に連絡し、事実に対する保護者の理解や納得を得た上、学校と連携して以後の対応を適切に行えるよう、協力を求め、継続的な助言を行う。

〈重大事態発生時の対処〉

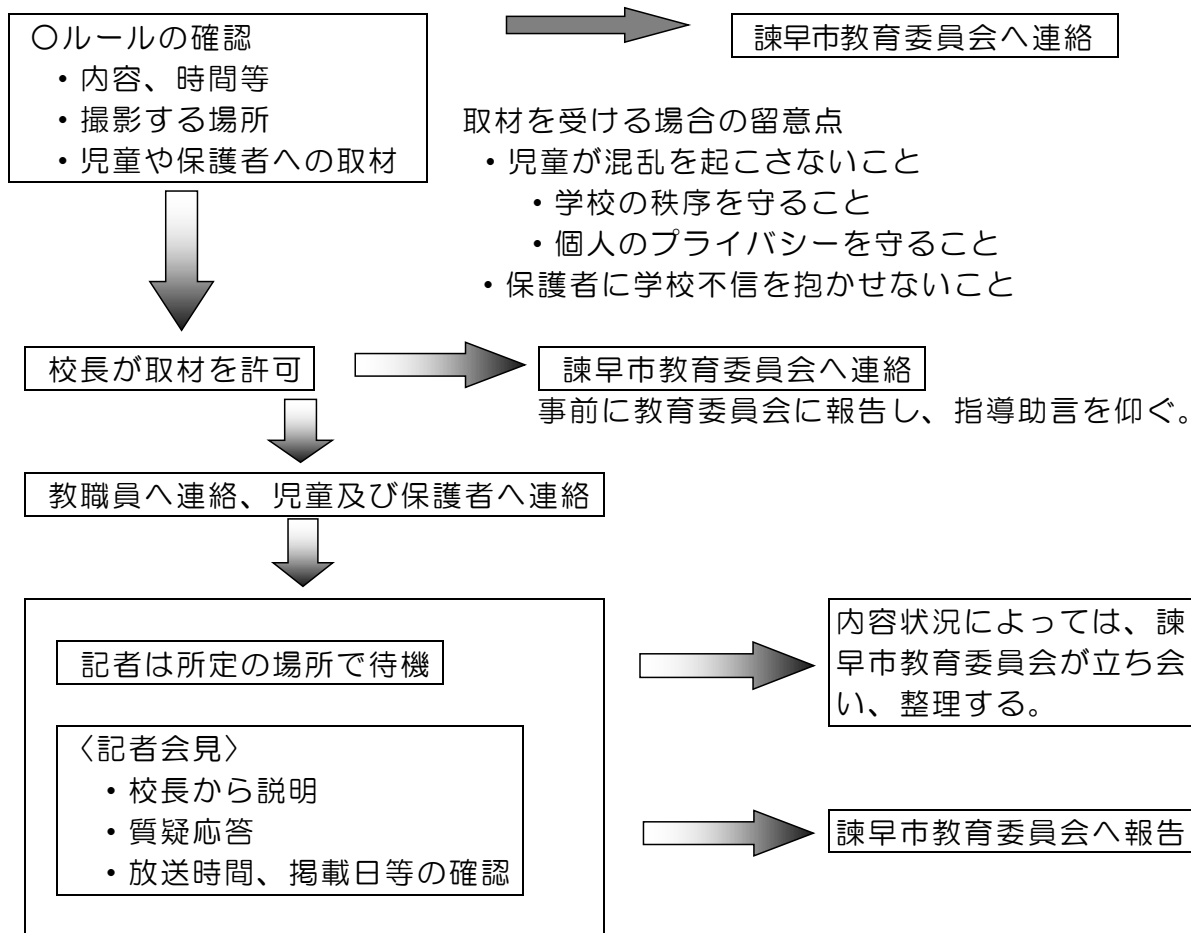
(1) 重大事態の定義

- ①いじめにより児童の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認められる場合（自殺を企図した場合等）
- ②いじめにより児童が相当の期間学校を欠席する（年間30日を目安として、一定期間連続して欠席している場合も含む。）ことを余儀なくされている疑いがあると認められる場合
- ③児童や保護者から「いじめられて重大事態に至った」という申立てがあった場合（「いじめ防止対策推進法」より）

【重大事態発生時の流れ】

地域社会・マスコミ等への対応

窓口は一本化（教頭）、憶測、推測で発言しない！



- ※誠意をもって、事実のみを伝える。
- ※言えないことは「言えない」とはっきり理由をつけて説明する。
- ※聞かれたことのみを的確に答える。
- ※公開してもよい資料は、先手で配布する。（教育委員会と調整）
- ※失言や事実と異なる話は、その場で素直に陳謝、訂正する。

【年間計画】

(人権意識を基盤とした)

重点年間生活目標「気持ちのよいあいさつ」「優しい言葉遣い」「はさみ歩き」

4月	○学校基本方針の確認 ・児童に対する情報交換 ◇学級開き、学級ルールづくり □いじめ対策についての説明、啓発（PTA総会、学級分会） ★いじめ対策校内委員会開催（年間計画策定等） ◇歓迎遠足
5月	○児童に対する情報交換 ・運動会 ○縦割り活動
6月	○児童に対する情報交換 ・真津山っ子を見つめる教育週間 ○縦割り活動 ○スポーツテスト ○児童に対する情報交換 ・自己評価の実施 ◇なかよしアンケート（→個人面談） ○縦割り活動
7月	□いじめ対策についての啓発（学級分会 地区懇談会） ★いじめ対策校内委員会開催（1学期対策の検証と修正）
8月	◇児童理解支援シート（いいとこみつけ）の記入 ○生徒指導に関する研修 ◇平和集会
9月	○児童に対する情報交換 ○縦割り活動
10月	○児童に対する情報交換 ◇なかよしアンケート（→個人面談） ○縦割り活動
11月	○児童に対する情報交換 ○縦割り活動 ◇人権集会
12月	○児童に対する情報交換 ・自己評価の実施 ★いじめ対策校内委員会開催 ◇児童理解支援シート（いいとこみつけ）の記入
1月	○児童に対する情報交換 ○縦割り活動 □学校評価アンケート
2月	○児童に対する情報交換 ○縦割り活動 ◇6年生を送る会 □いじめ対策についての啓発 ◇なかよしアンケート（→個人面談）
3月	○児童に対する情報交換 ★いじめ対策校内委員会開催（年度末評価と改善） ◇児童理解支援シート（いいとこみつけ）の記入

いじめ対策校内委員会は年度初めおよび学期末に必要なに応じて臨時に開催する。
校外委員会は、学校支援会議。